

## 平成28年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会 次第

日 時 平成28年12月19日（月）午後3時30分  
場 所 小田原市役所3階 議会全員協議会室

### 1. 開 会

### 2. 議 題

#### ・ 報告事項

- (1) 橋地域における実証運行の状況について
- (2) 鴨宮方面の大型商業施設等へのバス路線の検討について
- (3) 小田原駅周辺・訪日外国人旅行者等が移動を円滑に行うための交通サービスに関する調査について
- (4) まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について

#### ・ その他

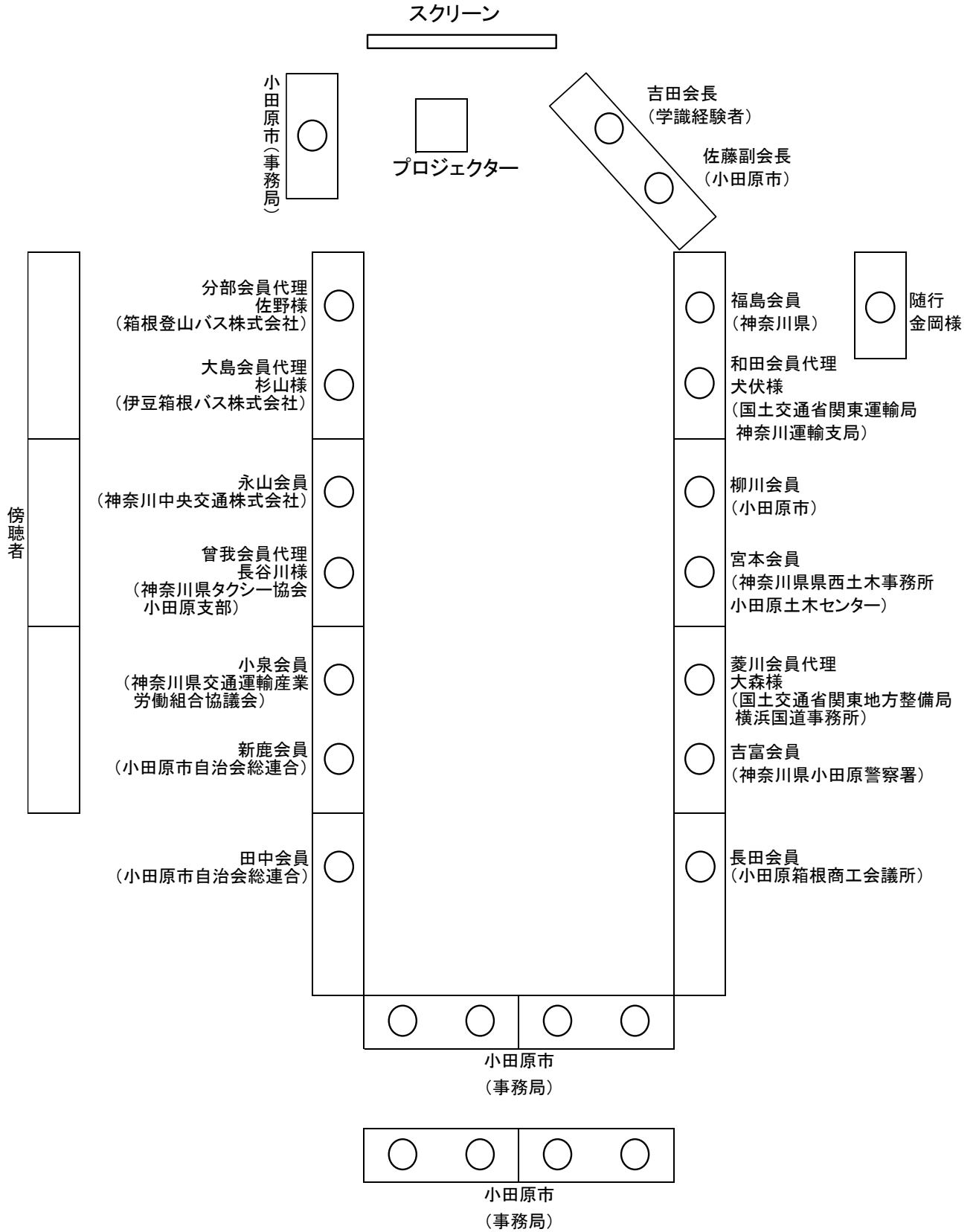
### 3. 閉 会

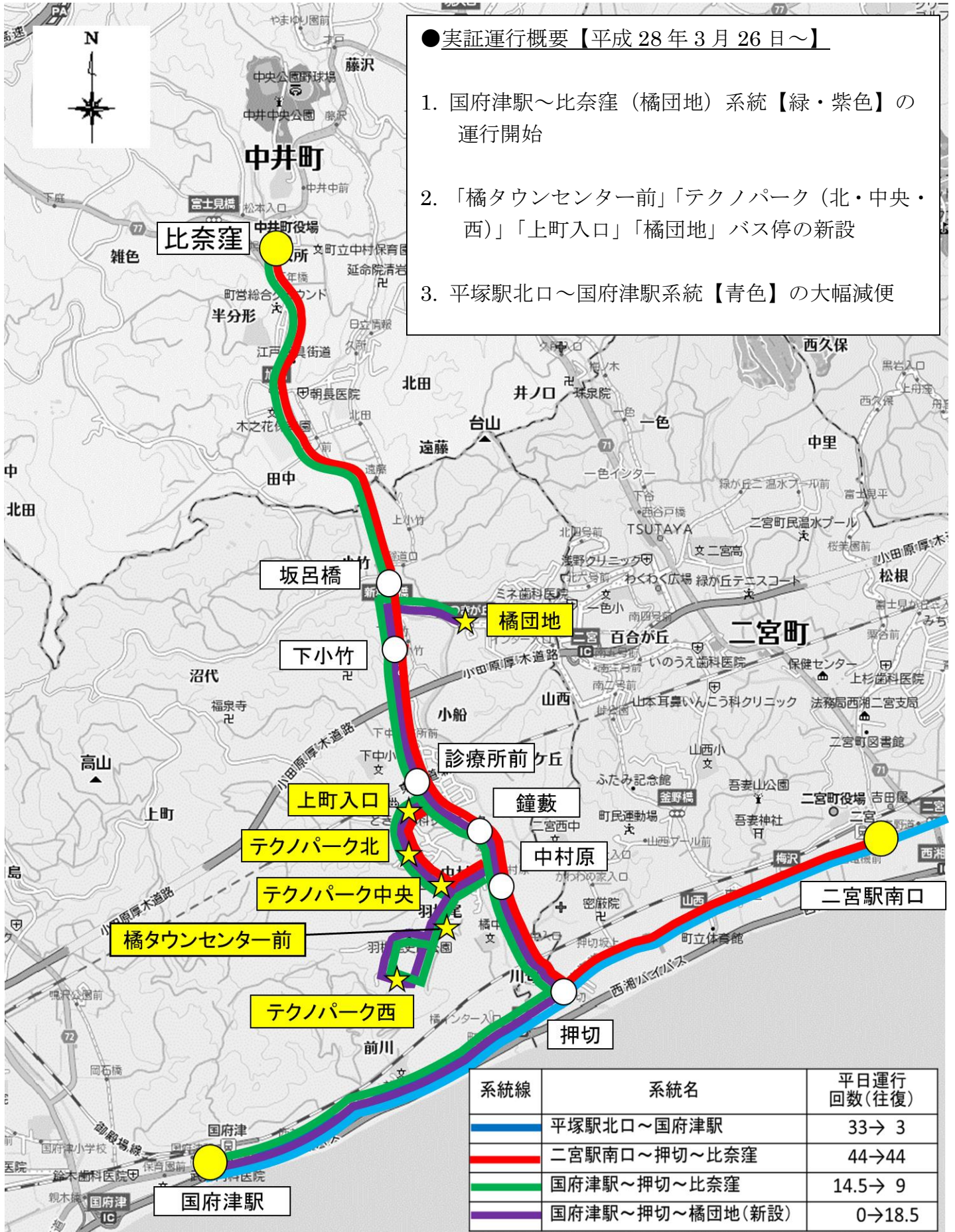
平成28年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会 出席者名簿

区 分		会 員		備 考
		職 名	氏 名	
バス事業者	箱根登山バス株式会社	運輸部長	分 部 純	代理出席 運輸部課長 佐野 剛
	伊豆箱根バス株式会社	小田原営業所長	大 島 雄 二	代理出席 副所長 杉山 新吾
	富士急湘南バス株式会社	専務取締役	志 村 公 聖	欠席
	神奈川中央交通株式会社	運輸計画部次長	永 山 輝 彦	
タクシー事業者	神奈川県タクシー協会 小田原支部	支部長	曾 我 良 成	代理出席 会員 長谷川 義明
運転者が組織する団体	神奈川県交通運輸産業 労働組合協議会	副委員長	小 泉 孝 行	
利用者・ 市民代表等	小田原市自治会総連合	曾我地区自治会連合会長	新 鹿 勲	
	小田原市自治会総連合	橘北地区自治会連合会長	田 中 正 俊	
	小田原箱根商工会議所	経営支援課長	長 田 圭 司	監事
学識経験者	福島大学	准教授	吉 田 樹	会長
交通管理者	神奈川県小田原警察署	交通第一課長	吉 富 孝 弘	
道路管理者	国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所	副所長	菱 川 龍	代理出席 交通対策課専門職 大森 武司
	神奈川県県西土木事務所 小田原土木センター	工務担当部長	宮 本 信 也	
	小田原市	建設部長	柳 川 公 利	
国	国土交通省関東運輸局 神奈川運輸支局	首席運輸企画専門官	和 田 喜 則	代理出席 運輸企画専門官 犬伏 達也
県	神奈川県	県土整備局都市部 交通企画課長	福 島 温	随 行 主 査 金 岡 知 世 監事
市	小田原市	都市部長	佐 藤 栄	副会長

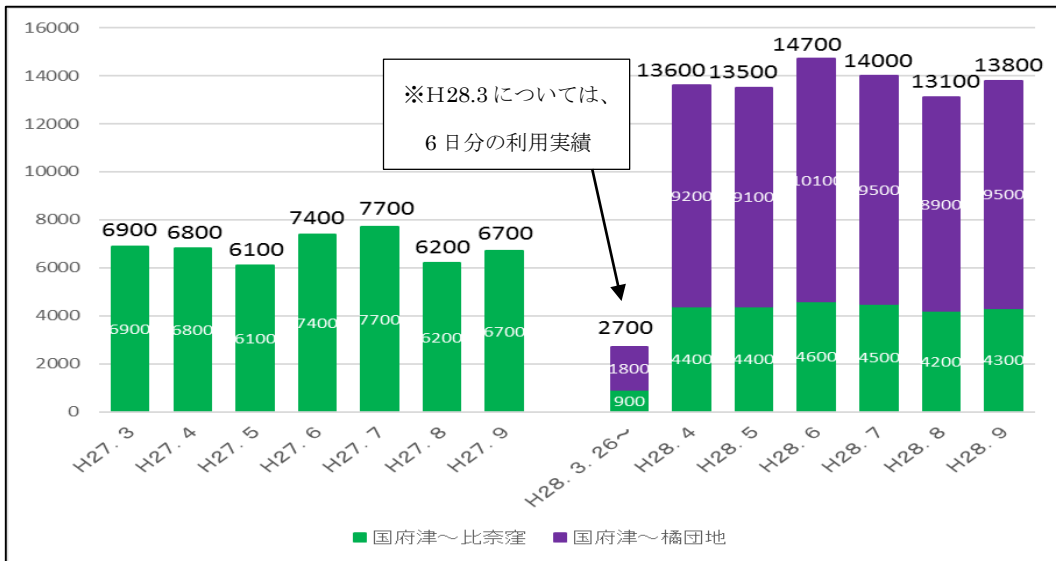
区 分		職 名	氏 名	備 考
事務局	小田原市	都市部副部長	石 塚 省 二	
		都市計画課交通政策 担当課長	西 浦 真 生	
		都市計画課副課長	松 本 義 摩	
		都市計画課主査	木 下 勝 広	
		都市計画課主任	中 道 和 徳	
		都市計画課主事	錦 織 麻 呂	

平成28年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会 座席表



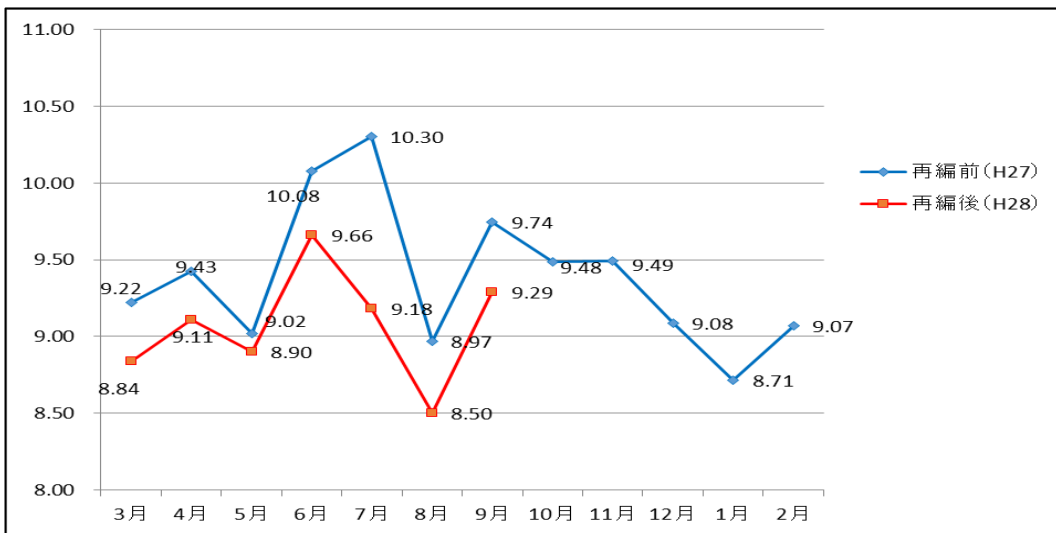


・国府津駅～比奈窪・橋団地 系統【緑・紫色】の乗車人数比較 [月単位]



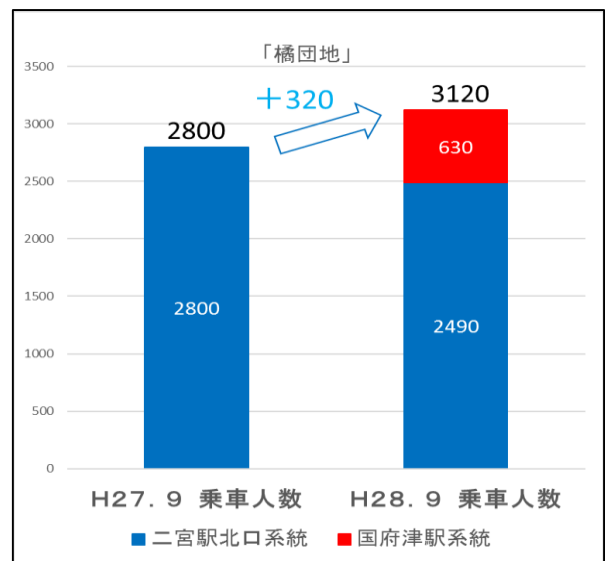
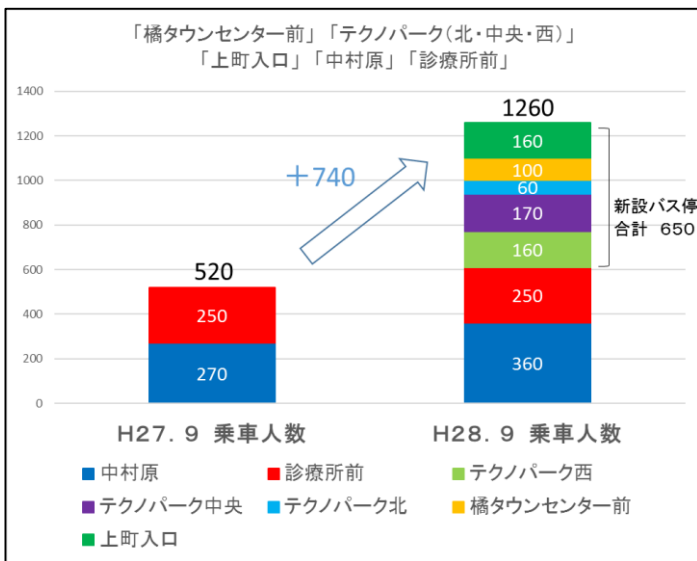
⇒昨年度と比較して乗車人数は倍増しており、一定の効果が現れている。

・国府津駅～比奈窪・橋団地 系統【緑・紫色】の輸送効率 [月単位]



⇒1運行当りの乗車人数に大きな変化はないものの、バス事業者の採算性踏まえると減便等の可能性もあるため、利用啓発活動を継続しつつ、今後の推移を注視していく。

・国府津駅～比奈窪・橋団地 系統【緑・紫色】の新設バス停乗車人数比較 [月単位]



⇒新設したバス停の乗車人数は、西湘テクノパークの従業員等の利用により月当たり約740人、橋団地バス停では約320人の増加があった。

## ○実証運行開始後の利用啓発活動等

平成28年3月26日から、地域のニーズに応じた既存のバス路線の再編と併せて3年間の実証運行を開始し、その後、下記の通り利用啓発活動等を実施した。

### 【経過】

平成28年 4月	橘地域各自治会掲示板へ実証運行開始のお知らせ掲示 橘商工会掲示板へ実証運行開始のお知らせ掲示
平成28年 5月	平成28年度第1回橘公共交通検討会を開催 橘北地域に公共交通に関するアンケートを実施【対象者2,570世帯】
平成28年 7月	早朝歩こう会に参加
平成28年 8月	西湘テクノパーク企業連絡協議会に出席 西湘テクノパーク交通アンケートを実施【対象者953人】 橘タウンセンターこゆるぎ内に利用啓発ポスター等を掲示 平成28年度第2回橘公共交通検討会を開催
平成28年 9月	広報小田原9月1日号バスの日の掲載 橘中学校PTA運営委員会に出席 橘地域の路線バスに関する利用啓発の回覧を実施
平成28年10月	橘商工会理事会に出席 前羽地区団体長等連絡会に出席 橘北地域に公共交通に関するアンケート結果報告の回覧を実施
平成28年11月	たちばなファミリーフェスティバルに参加 橘北地区まちづくり委員会に出席 平成28年度第3回橘公共交通検討会を開催

# 鴨宮方面の大型商業施設等へのバス路線の検討

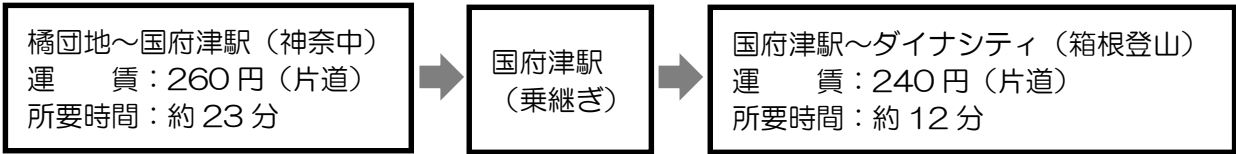
## 1. 概要

平成 25 年 11 月に実施した住民アンケートで要望のあった、鴨宮方面の大型商業施設等へのバス路線の新設について、その需要等を把握する目的で、橋北地域の住民を対象にアンケート調査を平成 28 年 5 月に実施した。本資料はその結果報告と今後の検討方針について取りまとめたものである。

### 【既存バス路線との比較】

#### <既存バス路線利用>

- 橋団地～国府津駅路線を利用してダイナシティまで行く場合  
(運賃合計：500 円、所要時間：約 35 分+国府津駅での乗継ぎ時間)



#### <新設バス路線利用想定>

- 橋団地付近から鴨宮方面の大型商業施設等へのバス路線を新設した場合の想定

橋団地付近～ダイナシティ (バス事業者及び起終点は未定) 運賃：約 500 円 (片道) 予定 所要時間：約 35 分 (仮に橋団地を起終点とした場合) ※広域農道を運行し、1 便当たり最低 6 人以上の乗車が必要	※運行日数 365 日 運行回数 6 往復/日 とした場合
--	-------------------------------------

### 【各系統のルート図】



## 2. アンケート結果

実施期間：平成28年5月27日～6月30日

配布数：2,570枚

回収数：1,070枚

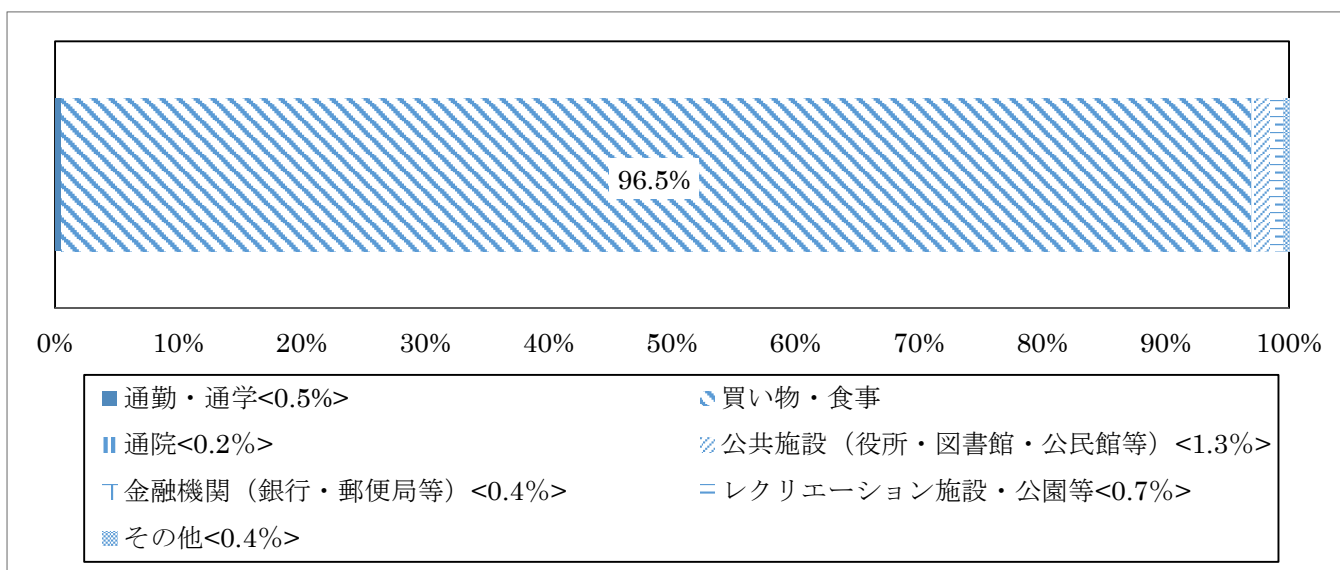
回収率：41.6%

### Q1. あなた自身についてお伺いします。〈一部抜粋〉

※各項目の割合については無回答分を除き、%は小数点第2位を四捨五入  
※グラフの都合上、割合が見えづらいものについては項目欄に数値を記載

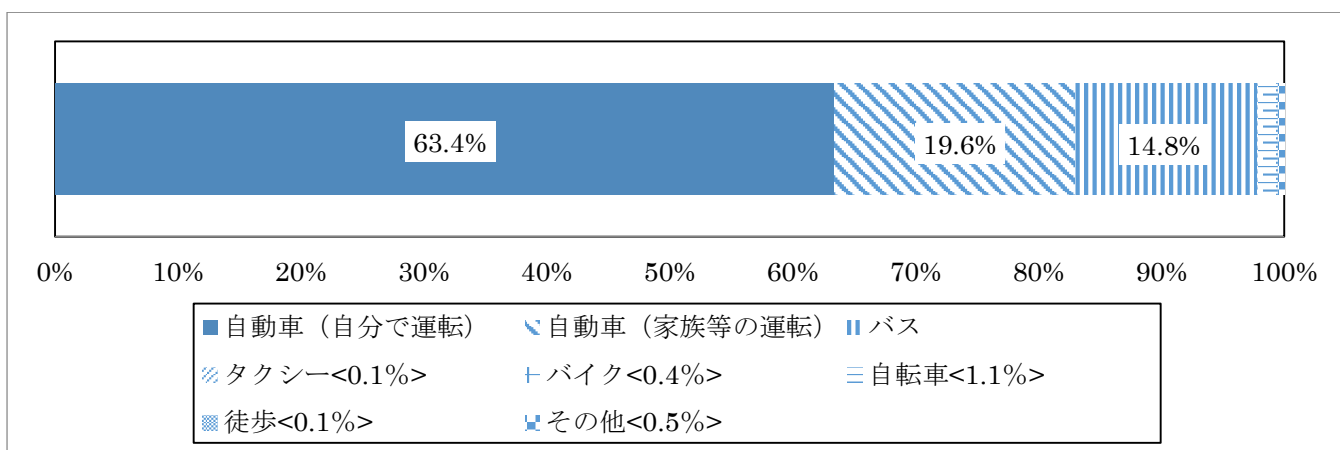
#### ■ダイナシティへ行く際の主な目的、交通手段

##### (1) 主な目的(n=946)



・ダイナシティへ行く際の主な目的については、「買い物・食事」が96.5%と大多数であることから、バス路線の新設目的が明確化されている。

##### (2) 主な交通手段(n=948)

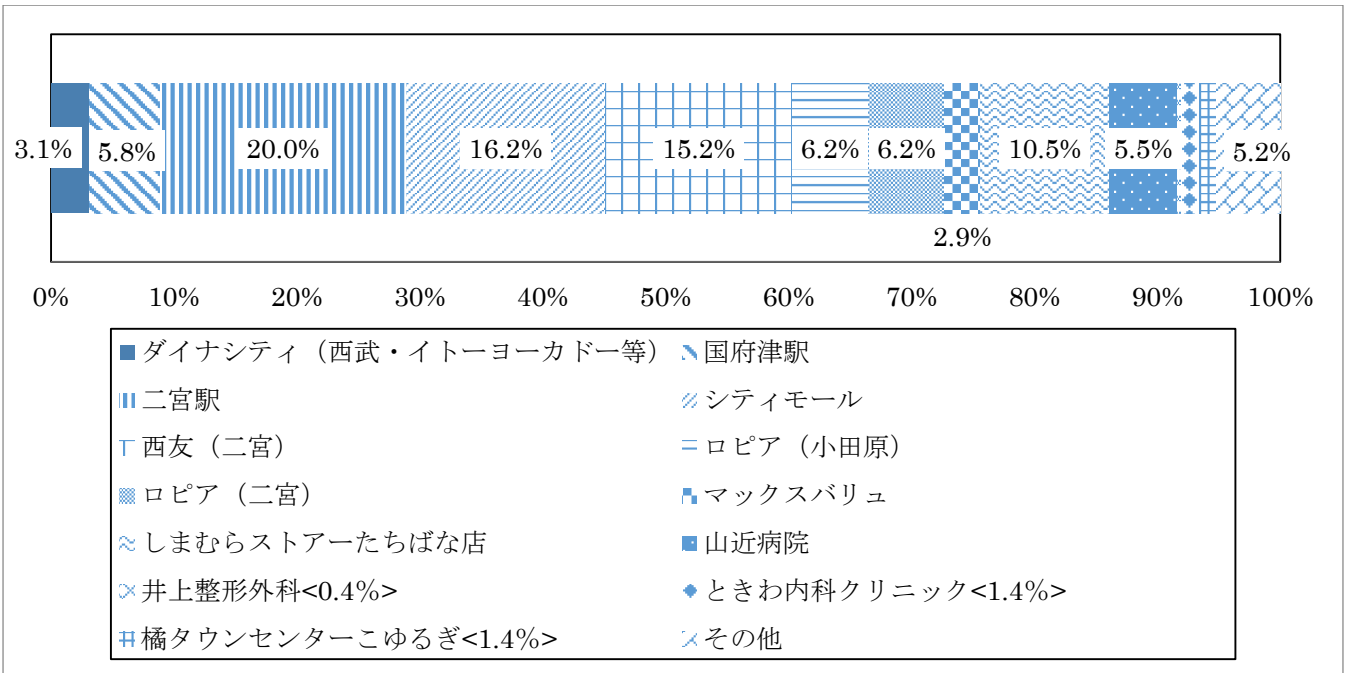


・ダイナシティへ行く際の主な交通手段については、既存のバス路線があるにも関わらず、「自動車（自分で運転）」「自動車（家族等の運転）」が合わせて83%であることから、バス路線の新設には、自動車利用者がどれだけ路線バスへの利用へと転換されるかが課題となる。



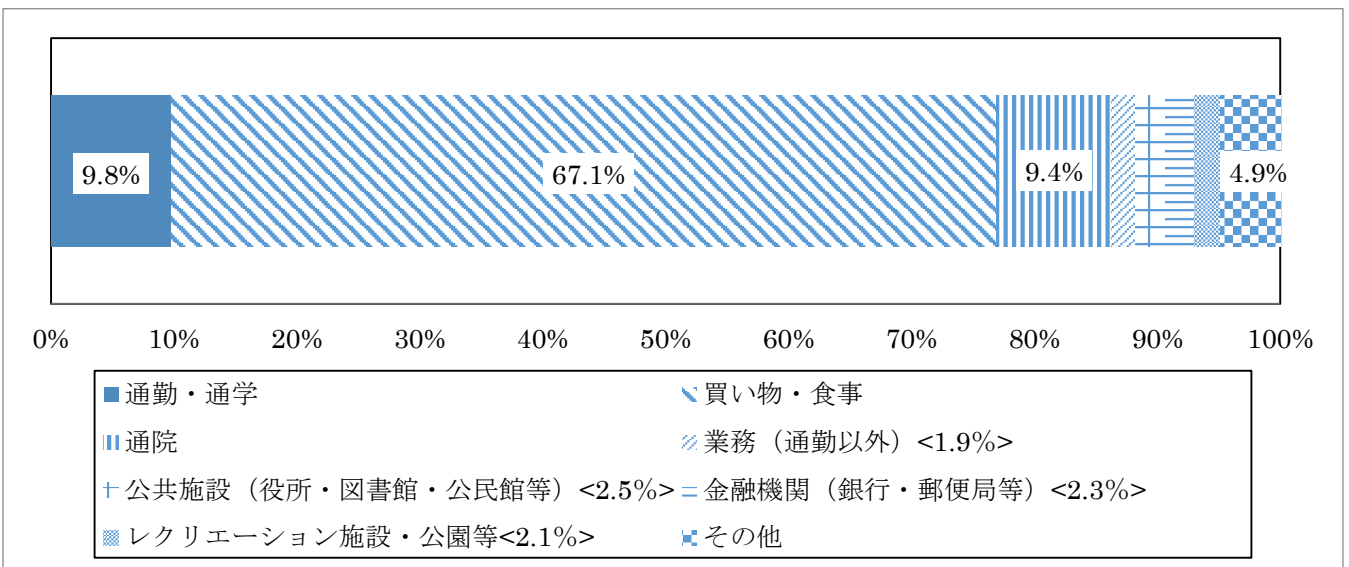
■その他、日常生活において利用頻度の高い主な行先、目的、交通手段<2つまで>

(1)主な行先(n=1, 998)



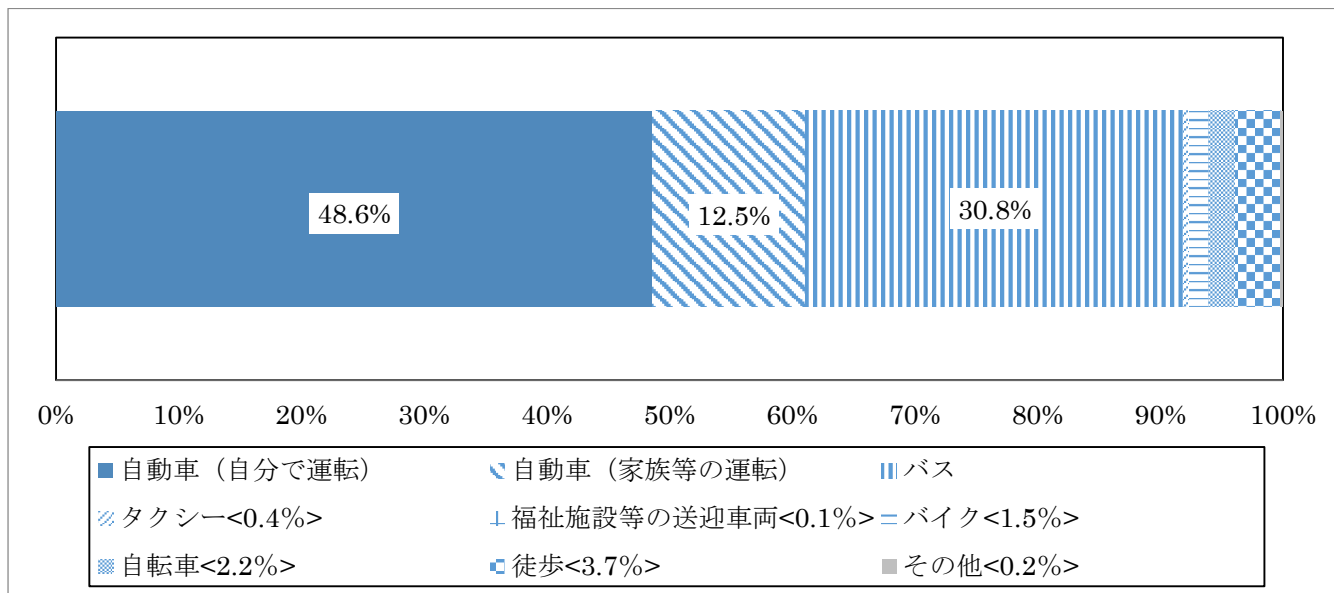
・日常生活における主な行先について、橘地域及び二宮町内の目的地(駅を除く)である「西友(二宮)」「ロピア(二宮)」「マックスバリュ」「しまむらストアーたちばな店」「井上整形外科」「ときわ内科クリニック」「橘タウンセンターこゆるぎ」が合わせて 38%であり、日常生活における所用が近隣で完結している傾向が伺えるが、一方で鴨宮方面の大型商業施設等の「ダイナシティ」「シティモール」「ロピア(小田原)」が合わせて 25.5%であり、約 4 人に 1 人の日常的な行先となっている。

(2)主な目的(n=1, 930)



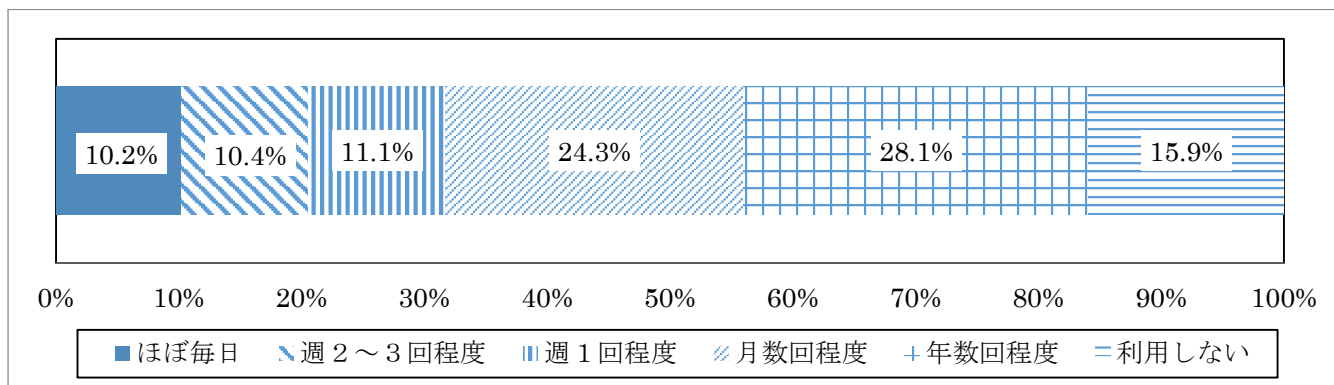
・日常生活における主な行先の目的について、「買い物・食事」が 67.1%であり、これは、(1)主な行先において駅を除く回答で多かった「シティモール」「西友(二宮)」「しまむらストアーたちばな店」などが、「買い物・食事」を目的としたものと想定されることから、結果が連動していることが伺える。

### (3)主な交通手段(n=1, 996)



・日常生活における主な交通手段について、「自動車(自分で運転)」「自動車(家族等の運転)」が合わせて61.1%である一方で、「バス」が30.8%であることから、橘北地域においてはバスの利用が一定数習慣化していることが伺える。

### ■バスの利用頻度(n=993)



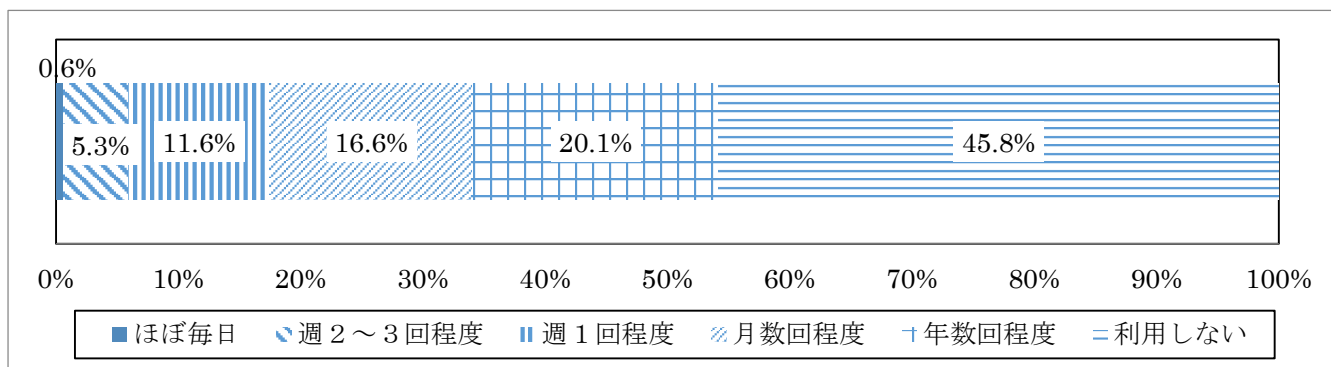
・バスの利用頻度について、「ほぼ毎日」「週2～3回程度」が合わせて20.6%であり、約2割以上が日常生活でバスを利用していると考えられる。

## Q2. 仮に、橋団地付近から広域農道を通してダイナシティ方面への直通のバス路線が新設された場合についてお伺いします。

※各項目の割合については無回答分を除き、%は小数点第2位を四捨五入

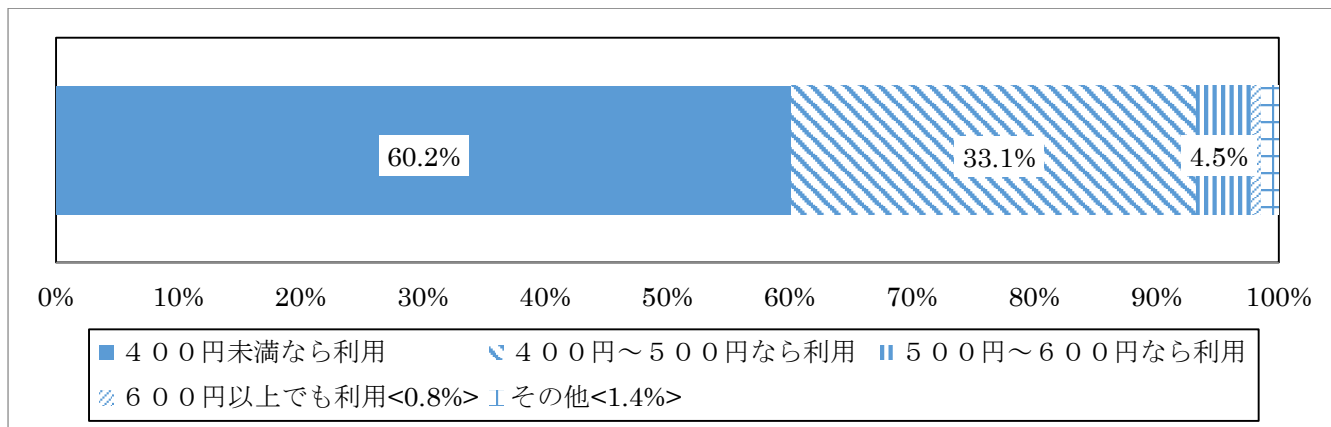
※グラフの都合上、割合が見えづらいものについては項目欄に数値を記載

### ■新設バスの利用頻度(n=955)



- ・新設バスの利用頻度について、「利用しない」が45.8%(436人)と最も多い他、日常生活でバスを利用していると考えられる「ほぼ毎日」が0.6%(6人)、「週2～3回程度」が5.3%(51人)と、合わせて1割にも満たないことから、利用見込みは非常に厳しいと考えられる。
- ・事業採算ラインと想定される1便当たり最低6人以上の乗車を考慮すると、1日36人以上の往復乗車が必要であるが、「ほぼ毎日」の回答が6人と乗車人数が達していない結果となっている。

### ■新設バスの運賃(片道)(n=508)



- ・新設バスの運賃について、想定運賃500円を下回る「400円未満なら利用」が60.2%であり、運賃500円以下での利用となると93.3%の割合を占めている。

## 3. 鴨宮方面の大型商業施設等へのバス路線の今後の検討方針について

平成28年11月30日に開催した第3回橋公共交通検討会での協議において、新設バスの利用頻度については、1日36人以上の往復乗車が必要であるが、「ほぼ毎日」の回答が6人と、アンケート回収率を考慮しても乗車人数が少なく日常生活における交通手段としての利用が見込めないことや、新設バスの希望運賃についても、想定運賃500円以下の回答が約9割を超えていることなど、当該バス路線を新設することは、事業採算性等の観点から持続可能な路線の新設が困難であるとの結論に至った。

# 小田原駅周辺・訪日外国人旅行者等が移動を円滑に行うための交通サービスに関する調査

## 1. 事業概要

### ①目的

小田原駅及び東西駅前広場を含めた交通ターミナルにおいて、案内サインや案内所など乗り継ぎに関する情報提供等の実態調査を行い、その結果を踏まえ、外国人観光客を含めた利用者の乗り継ぎ環境の向上のため、情報提供等の改善に向けた検討を行う。

### ②業務件名

平成28年度小田原駅周辺・訪日外国人旅行者等が移動を円滑に行うための交通サービスに関する調査業務委託

### ③業務期間

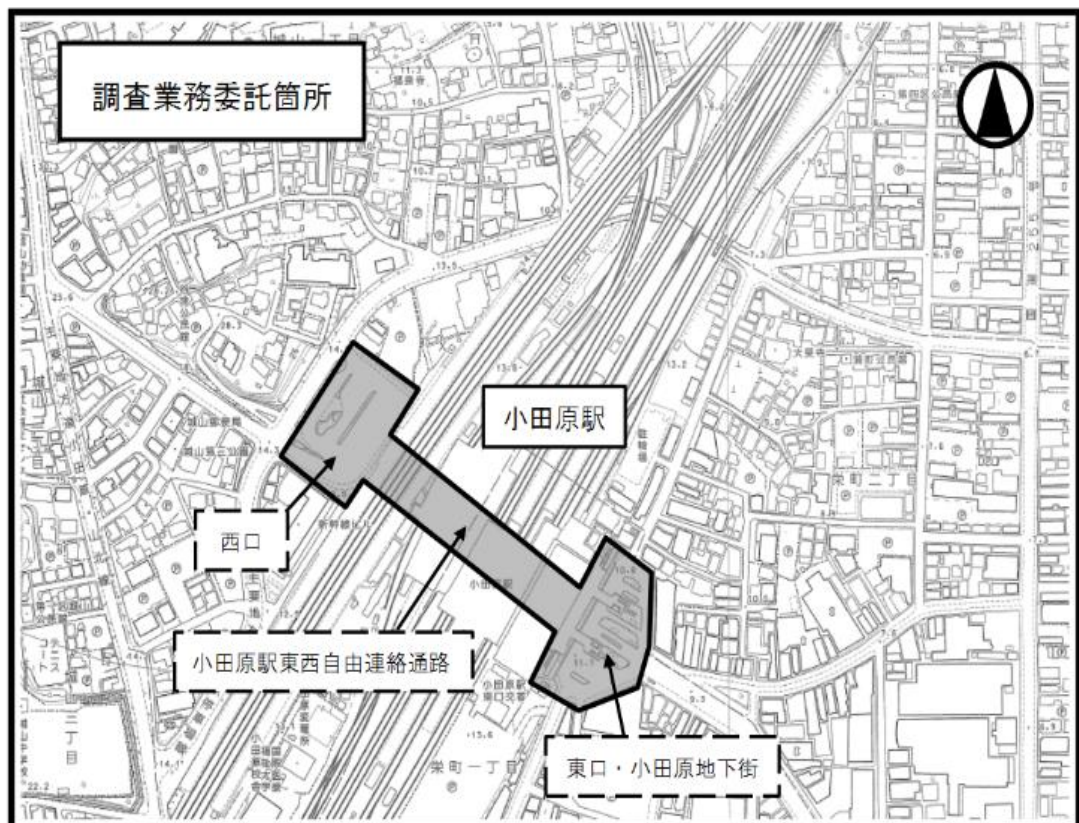
平成28年10月5日から平成29年3月24日まで

### ④受注者

東京都新宿区新宿5丁目5番3号 株式会社アルメックVPI

### ⑤調査業務委託箇所

小田原駅構内及び東西駅前広場（小田原地下街ハルネ小田原含む）



## 2. スケジュール

	10	11	12	1	2	3
(1) 実地調査	→					
(2) 案内整備における課題把握	→					
(3) 整備・改善点に対する案内等方針の検討			→			
(4) 案内情報の検討				→		
(5) 課題整理					→	
☆ワーキング会議				★ 第1回	★ 第2回	

### ○ワーキング会議会員名簿(案)

バス事業者	箱根登山バス株式会社
	伊豆箱根バス株式会社
	富士急湘南バス株式会社
	神奈川中央交通株式会社
タクシー事業者	神奈川県タクシー協会 小田原支部 「小田原駅構内タクシー組合」
鉄道事業者	東海旅客鉄道株式会社(東海道新幹線)
	東日本旅客鉄道株式会社(東海道本線)
	小田急電鉄株式会社(小田急小田原線)
	伊豆箱根鉄道株式会社(大雄山線)
	箱根登山鉄道株式会社(箱根登山線)
学識経験者	福島大学
交通管理者	神奈川県小田原警察署
国	国土交通省関東運輸局 神奈川運輸支局
市	小田原市

### 3. 現状の課題及び整備・改善点に対する案内等方針の検討案

		課題	方針案
情報提供	サイン案内板等の設置位置 【課題のとらえ方】 ①情報の連続性 ②各段階での必要情報 ③利用動線を考慮した案内板位置	<p>○東西バス乗り場や地下街におけるサインの形状・内容が様々で統一性・連続性がなく、分かりにくい。</p> <p>○改札出口で東西バス乗り場への方向の誘導サインはあるが、バスの行先が分からない。</p> <p>○近年外国人等観光客が増加している一方、案内所への誘導サインが不足している。</p> <p>○改札出口から東口バス乗り場方面において、ペDESTリアンデッキを経由するルートサインが不足している。</p> <p>○地下街から地上バス乗り場への階段やエレベーターへの案内が不足している。</p>	<p>●駅、バス乗り場、案内所間のサインを統一し、東西バス乗り場へ連続した、分かりやすい位置での情報提供を行う。 (改札出口～地下街～バス乗り場間の案内サイン等)</p> <p>●駅、バス乗り場、案内所の主要施設について、二次交通に関する内容のサインの配置を充実させる。 (改札出口のバス情報案内サインの強化)</p> <p>●移動の前に情報が把握、判断ができるようサイン設置位置を改善する。 (移動位置での事前のサイン)</p>
	サイン案内板等の表記内容・表記方法 【課題のとらえ方】 ①情報の不足 ②多言語化	<p>○自由通路中央部の看板におけるバスの行先情報が、日本語のみで外国人には分からない。</p> <p>○近年外国人等観光客が増加している一方、現状は日本語と英語の併記が大半を占め、英語圏以外の外国人には分かりにくい。</p> <p>○改札出口から東口バス乗り場方面において、ペDESTリアンデッキを経由するルートの路面の誘導サインが日本語のみで外国人には分からない。</p>	<p>●改札出口のバスの情報を充実させる。 (バス路線の行先情報等)</p> <p>●改札出口、バス乗り場、案内所等の主要位置での表記言語数を検討する。 (日本語と英語併記を基本とし、必要に応じて他の言語の表記)</p>
	その他情報提供方法	<p>○案内所の外国人利用者に対して、対応言語が不足することがある。</p> <p>○外国人利用者が季節などにより増加し、案内所が対応までに時間がかかる場合がある。</p>	<p>●多言語対応等、人的対応としての案内所の強化を検討する。</p> <p>●人的対応を補う機器等を活用した案内の提供を検討する。 (インターネット、Wi-Fi など)</p>

		課題	方針案
施設	バス乗り場	○乱横断に対して、看板設置等を行ったが、まだ乱横断する利用者が多い。	<p>●分かりやすく、負担、危険のない経路の事前案内を強化する。</p> <p>●乱横断の多い箇所へ表記言語を検討し、注意喚起の標示を強化する。</p>
	関連施設	○東口のバス乗り場へのルートが2層構造(デッキ・地下)になっており、分かりにくさが生じている。	●別途、乱横断注意等、安全啓発を行う。

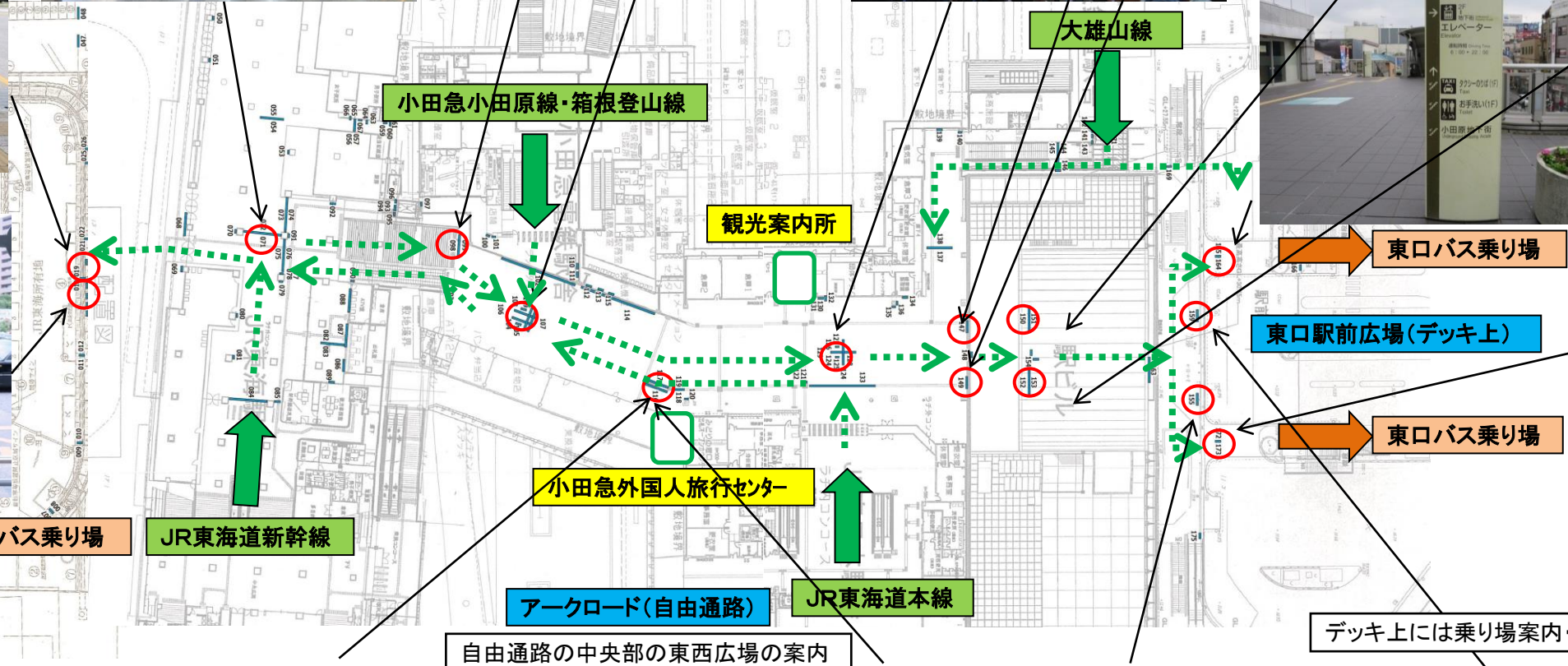
バス乗り場への動線と案内サインの現状

東の方向(2カ国語)  
案内所サイン(2カ国語)

東西の方向(一部バスの方面 2カ国語)  
案内所サイン(2カ国語)

東口の方向(2カ国語)

広場前には乗り場案内・時刻表



デッキ上には乗り場案内・時刻表

自由通路の中央部の東西広場の案内

東口バス乗り場

東口駅前広場(デッキ上)

東口バス乗り場

西口バス乗り場

西口駅前広場

小田急小田原線・箱根登山線

観光案内所

小田急外国人旅行センター

アークロード(自由通路)

JR東海道本線

大雄山線

## まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業

### 1 目的

本プロジェクトは、増加する本市の CO2 排出量の削減を図るため、小田原市低炭素都市づくり計画(平成 26 年 9 月策定)や国土交通省のまち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業(平成 27 年 3 月モデル構想策定)による検討を踏まえ、小田原市、商業施設及びバス事業者の官民連携により、自家用車からエコな公共交通への転換を推進するとともに市民のおでかけの機会の増加(健康増進・未病)を図ろうとするものである。

### 2 プロジェクト参加者

行政 :小田原市

商業施設 :株式会社ダイナシティ、西武小田原店、イトーヨーカドー小田原店

バス事業者:箱根登山バス株式会社、富士急湘南バス株式会社

### 3 プロジェクトの仕組み

- (1) 一定額(税込 2,000 円)以上買い物した人に先着でバス無料乗車券を配布
- (2) 利用者は、プロジェクト実施期間内にバス無料乗車券を利用
- (3) バス事業者は、バス無料乗車券の利用実績に基づく運行協力金を商業施設へ請求
- (4) 商業施設は、バス事業者から請求された金額を支払い
- (5) プロジェクト終了後、バス事業者は、商業施設の広告をバス車内等に掲示

### 4 実施概要及び結果

裏面参照

### 5 今後の実施方針

- (1) 3 年間(平成 27、28、29 年度)を目安として、効果を検証しながら現在の体制で実施する。
- (2) 適正な効果検証を行うためにも、バス無料乗車券の利用枚数のさらなる増加を目指し、自家用車から公共交通への転換を進めていく。
- (3) 平成 29 年度実施終了時に、プロジェクト継続の可否や周辺商業施設を含めた展開等を検討する。



#### 4 実施概要及び結果

	第 1 回	第 2 回	第 3 回(今回)
配布期間	平成 27 年 7 月 15 日～7 月 24 日 10 日間	平成 27 年 11 月 3 日～12 月 31 日 59 日間 ※なくなり次第配布終了	平成 28 年 7 月 1 日～ 8 月 31 日 62 日間 ※なくなり次第配布終了
利用期間	平成 27 年 7 月 25 日～8 月 9 日 16 日間	平成 27 年 11 月 3 日～平成 28 年 1 月 31 日 90 日間	平成 28 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日 92 日間
配布予定数	3,000 枚	6,000 枚	6,000 枚
購入金額	1 日税込 3,000 円以上	1 日税込 2,000 円以上	1 日税込 2,000 円以上
配布枚数	購入金額 3,000 円以上で 1 枚	購入金額 2,000 円ごとに 1 枚 ※最大 4 枚まで	購入金額 2,000 円ごとに 1 枚 ※最大 4 枚まで
利用条件	「ダイナシティ」又は「小田原東郵便局前」 バス停で下車した場合に有効	「ダイナシティ」又は「小田原東郵便局前」 バス停で乗車又は下車した場合に有効	「ダイナシティ」又は「小田原東郵便局前」 バス停で乗車又は下車した場合に有効
広 報	ポスター、チラシ、店舗広告、ホームページ、 広報誌、タウン誌、新聞による周知。	第 1 回で実施した周知方法に加え、次の 方法により周知拡大を図った。 ○のぼり旗の設置 ○ギフトカタログ発送時にチラシ封入 ○バス車内でチラシ・ポスター掲示、案内放送 ○おだわらスマートシティフェアに出展	第 1 回で実施した周知方法に加え、次の 方法により周知拡大を図った。 ○のぼり旗の設置 ○ギフトカタログ発送時にチラシ封入 ○バス車内でチラシ・ポスター掲示、案内放送
実施結果	配布枚数 263 枚(配布総数比 8.8%) 利用枚数 102 枚(配布枚数比 38.8%)	配布枚数 6,000 枚(全て配布済み) 利用枚数 3,917 枚(配布枚数比 65.3%)	配布枚数 6,000 枚(全て配布済み) 利用枚数 4,082 枚(配布枚数比 68.0%)
実施効果	自家用車からバスへの移行台数 18 台 ≒ 102 枚(バス無料乗車券利用枚数) × 18.5%(交通手段が「自家用車」の回答率)	自家用車からバスへの移行台数 951 台 ≒ 3,917 枚(バス無料乗車券利用枚数) × 24.3%(交通手段が「自家用車」の回答率)	自家用車からバスへの移行台数 881 台 ≒ 4,082 枚(バス無料乗車券利用枚数) × 21.6%(交通手段が「自家用車」の回答率)
アンケート	回 答 数 22 枚(利用枚数比 21.5%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バ ス: 19 枚(35.2%) 自家用車: 10 枚(18.5%)	回 答 数 1,220 枚(利用枚数比 31.1%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バス・電車: 976 枚(49.5%) 自家用車: 479 枚(24.3%)	回 答 数 1,144 枚(利用枚数比 28.0%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バス・電車: 997 枚(47.6%) 自家用車: 452 枚(21.6%)